

されば生等が茲に非難がましき言辭を羅列すればと  
て、決して非難攻撃には非ずし、皇室の爲、民衆の爲  
に此が非難を起し念ずる生等が、許さざる事情を親しく  
披瀝するものに外ならず、閣下よ、幸に是の微衷を諒と  
し、誤解なきやう相望いたしませぬ。

閣下よ、生等は懸念なきを得ませぬ。生等は決して徒  
らに性急なるもので無い事を自信して居ります。従つて  
生等は罹災後未だ三旬を過ぎて、今日に於いて、復興乃  
至救助の事が捗りしからずとして、矢継ぎ早に彼れ是れ提言  
せんとす言ふのではありませぬ。  
然し乍ら生等のみならず、社会現下の実状を見るに、一方  
には保険金運動あり、他方には失業群衆あり、労働賃銀  
漸下の事実あり、秋冷の悲觀、前途の不安が、幾百萬罹

災民を救ふのを見るにつけても、皇國の是れ、真に悲  
念し憂懼を感ずるを得ぬのであります。

生等の憂懼懸念は、今回の震災に依りて與へられたる  
帝都復興の事の至重に於て、至難なるにも拘はらず、諸公  
の誠意三礼に添はずと去ふが如くに見るの結果では無く  
て、我が日本帝國が今回の震災前に社会的に經濟的に  
窮状を呈して居た事を痛感し、従つて今回の遠く震災に  
對する施設以上の大策が無くては震災そのものの救済も  
殆んど覺束なく、況んや震災前に逼迫して居た全國的  
窮状を救ふにやとの一察は深き悲慮の結果であります。

三

閣下は其の告諭に於いて曰く、之を復興するの努力如何  
何百、世界列國の環視する處、我國實力の如何を知るの